

さいがただより

第12号

さいがた病院の基本理念 「良い医療を安全に 心をこめて」

No.012

発行 / 独立行政法人 国立病院機構 さいがた病院 院長 下村登規夫 平成 24 年 1 月 第 12 号

年 頭 所 感



独立行政法人 国立病院機構
さいがた病院
院長 しもむら 下村 ときお 登規夫

昨年は、多くの災害に見舞われ、いまだに完全復興には至っていないのが現状です。それでも、この災害で人々の「絆」が生まれ、再確認されたことは、私たち日本人にとっても意義深い一年であったとも言えるでしょう。願わくは、今年は災害とは無縁の復興一筋の一年であってほしい。こう考えるのは、私だけではないと考えています。天災と人災が入り混じり大きな災害へと発展してしまうのは、便利になった社会の裏の一面すなわち危険な一面を私たちに教えてくれていたのかもしれない。

昨年は、宮沢賢治の有名な詩である「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」がよくうたわれました。しかし、この詩は、「ソウイウモノニ ワタシハナリタイ」で終わるのであり、実際には賢治が理想とした人物像を描いたものなのです。この詩の最初の部分は、まさに復興にふさわしい出だしであるといえます。この部分に励まされた方も多いと思います。それはそれで、とてもいいことだと感じています。それは、どこかによりどころを見つけて頑張っていく、それが日本人のいいところかもしれないと感じているからです。

さらに、「節約」という概念を再認識させられたのも事実でしょう。そして、「やればできる」という自信を持たせてくれた年でもありました。私は、「豊かさの中の節約」という言葉を書いたことがあります。これまで、豊かさとは、ある意味で「浪費」できるところに存在するように考えていました（それは、間違いではないと思います）。しかし、豊かだからこそ、その豊かさを長続きさせるために節約が必要なのだということを、計画停電や燃料不足などのこれまで経験したことのない現実の中から学び取ることができたのも事実ではないでしょうか。

今年は、この「豊かさの中の節約」をさらに発展させて、真の豊かさを享受できるように力を合わせる年になるのかもしれない。私たちは、医療に携わる人間として、医療の面から健康の維持や回復に貢献し、「豊かさの中の節約」をすべての人々が享受できるような社会作りに役立ちたいと考えています。今年も、私ども「さいがた病院」の活動から目が離せないよう努力いたす所存ですので、是非、応援をよろしくお願い申し上げます。

平成23年度 院内研究学会

管理課長 三浦正則

今年度の院内研究学会は、平成23年11月9日と11月16日に開催いたしました。今年度のテーマは医療安全（暴力防止）です。

1日目は一般演題で16題提出していただきました。2日目は筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻准教授 三木明子様から「院内暴力対策－患者からの暴言・暴力の対応－」と題して特別講演をしていただきました。

一般演題のうち、特に優秀と認められた2演題に学会賞を授与したので、以下に紹介します。

一般演題【口演】

【研究テーマ】

精神科デイケアにおける統合失調症患者を対象とした心理教育プログラムの導入とその効果の検証

【発表者・共同演者】

発表者：医療社会事業専門員 狩野 俊介

共同演者：心理療法士 野村 照幸 看護師 吉崎 祥彦

【研究概要】

精神疾患の治療においては薬物療法と心理社会的な治療が有効であるとされ、当院の医療観察法病棟でも各種治療プログラムが実施されている。そこで、当院の一般精神科部門においても心理教育プログラムを提供することは、当院利用者の生活安定や well-being において重要と考えられ、また医療観察法医療を一般医療へ般化することも目的に精神科デイケアにて新たな心理教育プログラムを導入し、その効果を検証した。

心理教育プログラムについては、症状自己管理や再発予防を目的に平成23年8月より、週1回、1クール5セッションとしてプログラムを実施した。プログラムテキストは、共同演者と発表者とが協力して作成した。

そして、効果測定については、プログラム実施前と実施後に、病気に関する知識や地域生活における自己効力感を評価するため、複数の評価尺度を用いて得点の変化を調査した。また、プログラム未実施群においても同時期に同様の尺度での評価を行っており、それらを実施群の対照群として各評価尺度の平均変化量を比較調査した。

結果は、プログラム実施群における各評価尺度の得点の平均値については、全ての評価尺度において向上しており、プログラム実施群と未実施群とを比較対照した得点の平均変化量については、全ての評価尺度においてプログラム実施群が上回っていた。

このことから、今回実施した心理教育プログラムには、病識の獲得を促し、治療行動や症状対処行動など全般的な地域生活行動における自己効力感を高められる可能性が示唆された。しかし、本プログラムは導入し始めたばかりであり、十分な効果測定を行うためにはさらに多くのデータの蓄積を図ることが必要である。

最後に今後の展望であるが、今回は医療観察法病棟で実施されている治療プログラムを参考に、精神科デイケアにおいて心理教育プログラムを実施した。今後も継続し、効果測定を行いながら、精神科病棟や精神科外来でも心理教育プログラムを実施していきたいと考えている。そのために、院内にて治療プログラムワーキンググループを構成し、院内の治療プログラムを充実させていきたいとも考えている。そのことが、院内だけでなく、地域で生活されている方々の病状管理に寄与することができ、地域で活躍されている専門職の臨床活動にも有効的に利用してもらえるのではないかと考えている。そのことが、当院の特色ある医療サービスとなり、多くの方から魅力を感じてもらえる医療機関となっていけるのではないかと考えている。

安全な拘束帯使用の実施に 向けた取り組み



NHOさいがた病院

○ 小熊 朝子 上村 尚美 堀部 泰治
松浦富士子

【はじめに】

身体拘束は、個人の尊厳や人権上の観点から、問題視されているにも関わらず、年々増加し事故が発生しているのが実情である。当院では実施する職員は経験値として技術を高めた人、経験者からの手ほどきで実施するという現状であった。正しい知識と技術を持ち、安全に拘束(抑制)を実施できる職員を育成するためにシステム構築に取り組んだ。

【方法】

1. 身体拘束(抑制)実施マニュアルの作成
2. 身体拘束(抑制)スペシャリスト育成研修プログラム作成
3. スペシャリスト育成研修の実施

3. スペシャリスト育成研修実施

- 講義 : マニュアルと実際の事故事例資料を使用
 演習 : 胴→上下肢→肩の順で実施
 患者役になり拘束(抑制)を体験
 試験 : 知識面・筆記試験(合格80点以上)
 技術面・実技試験
 ・拘束チェック項目表(25項目)を作成して評価しタイム測定した

【取り組みの実際】

1. マニュアル作成

- 1) 言葉の定義
- 2) 精神科における拘束について
- 3) 一般診療科における抑制について
- 4) 拘束(抑制)時の看護
- 5) 拘束帯の使用方法(写真・解説付き)



マニュアルが整備されたことで、初めて拘束帯を使用するスタッフにもわかりやすく、教育としても活用できるようになった。

- ・点数が満たない者は追試を実施
- ・実技は評価表が全て○になるまで2回実施
- ・ケアの質・安全を見直すきっかけとなった。
- ・現場で自らスタッフを指導していく事で技術がさらに向上していくと考える。

2. スペシャリスト育成プログラム作成

- 目標
- 1) 精神科における拘束について精神保健福祉法に基づいて理解できる
 - 2) 一般診療科における抑制についての基本が理解できる
 - 3) 拘束(抑制)が正しく・安全に実施できる
 - 4) 拘束(抑制)実施時の看護を理解し実践できる

対象 : 精神科勤務の副看護師長6名
 方法 : 講義と演習
 時間 : 1時間ずつ4回
 課題 : 病棟で1名の看護師を育てる

対象者の声は…

- ・事故事例を学んだことで、正しく実施することの重要性が再確認できた。
- ・拘束(抑制)の観察のポイントがわかり、実際の場面で役立っている。
- ・患者役を体験した事で拘束(抑制)の仕方によって苦痛・痛みを生ずる等、身をもって学ぶことができた。
- ・患者の気持ちに立って考え実施していくことが必要だとわかった。
- ・拘束(抑制)は普段実施していたが、正しくできていなかった。

【今後に向けて…】

1. 対象者がスペシャリストとして、院内教育と機会教育に関わり職員を育成する。
2. 身体・安全面の配慮のみならず、患者の気持ちをくみ取る姿勢、心理ケアについても考え実践できる看護師を育てていく。

当院での食事提供

栄養管理室 笠原 知里

栄養管理室では、「安全で美味しい食事を提供することにより、医師を中心としたチーム治療に貢献すること」を基本理念とし、日々の業務にあたっています。病院食というと、『味が薄くて味気ない...』といったイメージを持っている方も多いのではないのでしょうか。さいがた病院では、一般食はもちろん形態調節食や 治療食のかたにも満足していただけるような食事の提供を心がけておりますが、治療食では塩分や糖質・脂質など制限も多く、入院の際も不安な方が多いと思います。当院では、なるべくご家庭での食事に近いよう、味や内容の調整を行っています。また、ご入院の際に、栄養指導を通して食事の内容や形態などのご案内を行っておりますので、どうぞお気軽にご相談下さい。

当院での取り組み

当院では長期入院の方が多く、食事も食べ飽きてしまう方がいらっしゃいます。そこで、年間行事の際には、献立内容を行事にあった内容に調整し、行事食カードを添えて提供しております。さらに、平成 21 年度よりお弁当盛り付けを実施しております。食品衛生上 10 月から 4 月の期間に各月 2 回、病棟ごとに下の写真のようなお弁当に盛りつけ、おしながきを添えて食事を提供しています。



また、今年度 10 月より特別メニューを開始しました。これは、通常の食費に加えて 52 円のご負担を頂き主食や主菜の変更に加え小鉢やデザートをつけたり、思考を凝らし提供しております。

内容は嗜好調査の結果を反映し、患者さんのニーズに沿えるように努めております。さいがた病院の食事は美味しく楽しみであると言っただけのよう、これからも取り組んでいきたいと思っております。



重症心身障害児・者病棟「院外バス遠足」の取り組み

療育指導室長 高橋 真喜彦

療育指導室では患者さんの発達保障とQOLの向上を目指し、保育士を中心に日々の療育活動と季節の様々な行事を立案、実施しています。

その中で今回は「院外バス遠足」を紹介します。1) 戸外での開放感を味わう。2) 病棟生活では経験することのない、様々な活動の経験をする。3) 家族とともに楽しい時間を過ごす。を目標に、小グループ(各病棟3名位)で10回実施しました。上越市の福祉バスや福祉タクシーを利用しています。

今年度は、大湊水と森公園、高田公園、イオン上越店、カラオケ(コートダジュール)、上越水族館へ行ってきました。戸外については雨天対策も必要になります。また、患者さんが安心して行かれるよう、看護師さんも各病棟1名救護係としてお願いし協力して頂いています。おかげで今年度も無事行うことができました。患者さん、ご家族の皆様にも大変好評でした。

重症心身障害児・者病棟は来年4月には療養介護への移行が予定されています。それにより、私たち療育指導室には福祉サービスの質が一層問われることとなります。患者さんの笑顔が更に多くなるように今後も関係スタッフと協力し取り組んでいきたいと思えます。



クリスマスイベント

看護師 山本 里美

12月14日(水)さいがた病院体育館にて、クリスマス会が行われました。

院長の開会挨拶の後、病院職員によるクリスマスソングの演奏と今年度初参加の上越教育大学のアカペラサークル16人による合唱がありました。その後、ディケアの人達によるギター演奏があり会場は大いに盛り上がりました。上越教育大学のアカペラサークルによる、普段、見聞きする機会が少ない洗練されたハーモニーが披露されとても新鮮で感動しました。

プログラムの最後に、院長を中心とした病院職員の演奏とアカペラサークル合同による「ジングルベル」「上を向いて歩こう」「明日があるさ」の演奏と参加者全員で演奏に合わせて合唱。職員がふんしたサンタクロースとトナカイが参加者にささやかなプレゼントもあり、一足早いクリスマス気分を楽しんで頂きました。

会場に置かれた大きなツリーの美しさは、クリスマス気分をより一層盛り上げてくれました。

会場には、地域の方々や患者様や職員を合わせて120名を超える方々に参加して頂き、大成功に終わる事が出来ました。

寒い中にもかかわらず参加して下さいました方々、上越教育大学サークルグループ、ディケアの皆様にご挨拶致します。有難うございました。



外来診療案内

- 1 受付時間 8:30~11:00 (予約者を除く)
- 2 休診日 土・日曜日、祝祭日、年末年始
- 3 担当医表 下表のとおり

平成24年 1月 1日

科別	曜日 (区分)	月	火	水	木	金
精神科	再診	西澤 芳子	伊澤 寛志 富永 格 (第3週)	上馬場伸始 西澤 芳子	武内 廣盛 伊澤 寛志	上馬場伸始
神経内科	初診・再診	下村登規夫	荒川 博之 下村登規夫 大嶋 崇文	引間 高太 下村登規夫	大嶋 崇文	大嶋 崇文
内科	初診・再診	小林 理 (第3週)				榛澤 和彦 (循環器)午前
リハビリテーション科	デイケア棟診察室	大嶋 崇文		大嶋 崇文	下村登規夫	
小児科				川崎 砂里 (第1週を除く)午後		
整形外科					労災病院医師 (毎週)	
歯科					中島かるら 入院患者に対応 (第2・4週)	

特殊 外来 (予約制)	脳ドック					
	頭痛外来 8:30~11:00					
	睡眠時無呼吸外来 14:00~16:00					
	慢性疲労外来 14:00~16:00					

【編集後記】

昨年話題はやはり東日本大震災であった。今でも多数の人々が仮設住宅に住んでいます。新潟県にも、福島県から避難した人がたくさんいます。又、放射能汚染による農作物の風評被害が、福島県の周りの県にも被害をもたらされています。

地震の影響で昨年の夏は県内で「ピークカット15%大作戦」が実施され、計画停電が回避された。そして、新潟、福島で記録的大雨を観測したが、上越地域は大きな被害がなかった。

今年は東日本大震災の1日も早い復興と平和な日々を願っています。



独立行政法人 国立病院機構

さいがた病院

〒949-3193

新潟県上越市大潟区犀潟 468-1

TEL: 025-534-3131 FAX: 025-534-4824

<http://www.saigata-nh.go.jp/>